

日本心理学会第 88 回大会

学術大会優秀発表賞 第 2 次審査結果

審査グループ名 : 1A

取りまとめ役氏名: 阿部 恒之 (東北大学)

<特別優秀発表賞> (計 1 本)

発表番号: 1A-066-PG

題 目: なぜ他者に依存する人は決断できないのか——依存傾向と前頭前野の関連——

<優秀発表賞> (計 4 本)

発表番号: 1A-042-PC

題 目: Dark Triad が社会的排斥を介して将来的な心理的 IPV 加害を増大させるプロセスについての検討

発表番号: 1A-052-PD

題 目: Predicting postpartum depression and mother-to-infant bonding difficulties from the prenatal period using machine learning

発表番号: 1A-074-PH

題 目: セルフタッチによる他身体部位と触覚の統合

発表番号: 1A-003-PA

題 目: VR セルフカウンセリングにおける介入効果のメカニズムおよびユーザビリティの検討

<選考経過>

グループ 1A の 1 次投票結果に取りまとめ役の 4 票を加えた結果, 上記の論文は, 上から 8, 7, 7, 5, 4 票となった。次点の 3 票は 7 本あり, これら僅差の発表も優秀ではあるが, 票に基づいて 4 票の 1A-003-PA までを優秀論文賞と判断した。

最多得点の 1A-066-PG は, 自分自身で決断することができない依存症の高い者は前頭前野の活動が弱くなっているという予測を, 依存性の高低で分けられた 2 群の意思決定課題遂行中の脳活動を fNIRS の測定によって実証したものである。特別優秀発表賞としてふさわしい論文であると判断した。

日本心理学会第 88 回大会

学術大会優秀発表賞 第 2 次審査結果

審査グループ名 : 1B

取りまとめ役氏名: 佐藤 隆夫 (人間環境大学)

<特別優秀発表賞> (計 1 本)

発表番号: 1B-067-PG

題 目: 感情的な音声の存在によって中立顔への表情同調が変化する

<優秀発表賞> (計 5 本)

発表番号: 1B-056-PD

題 目: うつ病患者の AQ は社会認知障害と関連するか

発表番号: 1B-092-PK

題 目: ノンレム睡眠とレム睡眠が記憶の定着と変容に果たす役割検証

発表番号: 1B-103-PM

題 目: コミュニケーション中の他者予測と意見共有による情動変化

発表番号: 1B-106-PM

題 目: 伝統芸能「能」実践者における内受容感覚

発表番号: 1B-088-PJ

題 目: 高齢者の囲碁スキルを定着させるプログラムの開発と評価——ランダム化比較試験と 1 年後の追跡調査による検討——

<選考経過>

第一次審査に於ける得票数を基に順位を与えたが、第 1 次審査で 3 票を得た発表が 5 件あったため、佐藤が加わり、うち 2 件を選出した。

日本心理学会第 88 回大会

学術大会優秀発表賞 第 2 次審査結果

審査グループ名 : 1C

取りまとめ役氏名: 四本 裕子 (東京大学)

<特別優秀発表賞> (計 1 本)

発表番号: 1C-058-PG

題 目: 内言と外言で瞳孔応答は異なるか——若齢成人を対象としたカウンティングタスクによる検討——

<優秀発表賞> (計 4 本)

発表番号: 1C-056-PG

題 目: 他者の感情観察時の顔血流の動態からみる社交不安症

発表番号: 1C-019-PC

題 目: スマートウォッチによる新たな ESM 手法”PALACE”の提案——若年女性を対象とした日常生活計測の事例に基づく利用可能性の検討——

発表番号: 1C-031-PC

題 目: ナッジの開示は意思決定者の自律性を保護するか——臓器提供意思表示未経験者と経験者の比較から——

発表番号: 1C-034-PC

題 目: パーソナルスペースと加齢——知覚・社会的変数の影響についての検討——

<選考経過>

1. グループ 1C の審査対象の発表は、82 本でした。その中で、得票数の多い順に、8 票(1 本)、6 票(1 本)、5 票(1 本)、4 票(2 本)、3 票(4 本)、2 票(11 本)、1 票(25 本)、0 票(37 本)となりました。
2. 特に審査委員からの評価が高く 8 票を獲得した 1C-058-PG を特別優秀発表賞とし、6~4 票を獲得した 4 発表を優秀発表賞の候補としました。

日本心理学会第 88 回大会

学術大会優秀発表賞 第 2 次審査結果

審査グループ名 : 1D

取りまとめ役氏名: 石金 浩史 (専修大学)

<特別優秀発表賞> (計 1 本)

発表番号: 1D-084-PM

題 目: 心的対比は困難な目標の追求を促進させるのか? ——文化に根づいた困難についての信念に焦点を当てて——

<優秀発表賞> (計 4 本) —

発表番号: 1D-085-PN

題 目: バカラ賭博における消費行動に基づくギャンブラーの分類——海外の店舗型カジノより得られた行動追跡データの階層的クラスタリング——

発表番号: 1D-098-P0

題 目: 6 歳児は悪性・良性妬みに基づいた妬み行動を示すのか

発表番号: 1D-048-PE

題 目: 統計情報と社会的規範が自転車の施錠行動を増やす——商業施設における社会実験——

発表番号: 1D-057-PI

題 目: なぜ顔パレイドリアは男性に見えるのか?

<選考経過>

得票数から上位 5 件を選出しました。この 5 件から特に優れていると判断した「1D-084-PM」を特別優秀発表賞とし、他の 4 本を優秀発表賞としました。特別優秀発表賞の 1 件は、日本人において、困難な目標に直面した際に心的対比を用いることで、目標追求が促進されることを示した発表であり、特に卓越した研究と認めました。

日本心理学会第 88 回大会

学術大会優秀発表賞 第 2 次審査結果

審査グループ名 : 2A

取りまとめ役氏名: 金井 篤子 (愛知みずほ大学)

<特別優秀発表賞> (計 1 本)

発表番号: 2A-091-P0

題 目: ロボットが見ている! ——5 歳児におけるロボットの前での評判操作と特性帰属——

<優秀発表賞> (計 3 本)

発表番号: 2A-029-PD

題 目: 表現ダンス介入がもの忘れの自覚のある高齢者のオキシトシンや神経伝達物質に及ぼす影響

発表番号: 2A-033-PD

題 目: 感情および感情制御による解離状態予測の試み——経験サンプリング法を用いた検討——

発表番号: 2A-059-PI

題 目: 過去は左に未来は右に配置される——単語配置課題を用いた心的時間直線の検討——

<選考経過>

1. 最多得票数 11 票を得た発表「2A-091-P0」を特別優秀発表賞としました。
2. 次に、9 票をえた発表「2A-029-PD」および、各 6 票ずつを得た発表「2A-033-PD」「2A-059-PI」を優秀発表賞とした。
3. 特別優秀発表賞の 1 本は社会的ロボットの可能性を検討した興味深い研究と考えます。

日本心理学会第 88 回大会

学術大会優秀発表賞 第 2 次審査結果

審査グループ名 : 2B

取りまとめ役氏名: 北村 英哉 (東洋大学)

<特別優秀発表賞> (計 1 本)

発表番号: 2B-046-PI

題 目: 運動意思決定におけるリスク志向バイアスの一般的要因と個人差要因

<優秀発表賞> (計 5 本)

発表番号: 2B-023-PC

題 目: 高齢者に対する否定的態度は職業によって異なるか? ——ステレオタイプ内容モデルのマッピング変動に基づく分析——

発表番号: 2B-050-PI

題 目: 共感覚と非共感覚の”境界”

発表番号: 2B-033-PD

題 目: 思春期に経験するストレスフルなライフイベントの統制可能性は抑うつ症状と異なる遺伝・環境相関を示す

発表番号: 2B-084-P0

題 目: 子どもの脳に対する親の逆境体験の世代間伝達効果

発表番号: 2B-015-PC

題 目: 孤独感はネットワーキング行動を促進するのか——確率的アクター志向モデルによる縦断的検討——

<選考経過>

第 1 次審査を行い、票数に差があるものが 6 点得られたので、4-6 票の得票を得たものを優秀発表賞以上とした。うち、6 票を得た 3 つの発表のうち、投票をしていなかった取りまとめ役が評価を行い、特に優れている判断した「2B-046-PI」を最優秀発表賞をとし、それ以外の 5 点を優秀発表賞とした。

日本心理学会第 88 回大会

学術大会優秀発表賞 第 2 次審査結果

審査グループ名 : 2C

取りまとめ役氏名: 唐沢 かおり (東京大学)

<特別優秀発表賞> (計 1 本)

発表番号: 2C-027-PC

題 目: 社会的排除経験がのちの敵対的認知および感情に及ぼす影響——日本の成人および幼児を対象とした検討——

<優秀発表賞> (計 5 本)

発表番号: 2C-057-PM

題 目: 他者にタッチされている物体はかわいいと感じられるか?

発表番号: 2C-007-PB

題 目: 旅行経験が自己変革をもたらすメカニズム——コレスポネンス分析による検討——

発表番号: 2C-032-PD

題 目: 就労系障害福祉サービスにおける職場の風土と支援員の自閉スペクトラム症に対するスティグマとの間の関連性——リーダーの謙虚さと心理的安全性に着目した検討——

発表番号: 2C-058-PM

題 目: 唾液セロトニン/オピオルフィン比と主観的幸福感との関連

発表番号: 2C-102-PS

題 目: 女性の管理職への昇進意欲に影響を与える要因

<選考経過>

最多得票数 5 票が 3 本、それに続き 4 票が 3 本でした。

最多得票の 3 本の内、特に優れていると判断した「2C-027-PC」を特別優秀発表賞とし、それ以外の 2 本および、4 票獲得の 3 本を優秀発表賞としました。

特別優秀賞発表の一本は、社会的排斥経験の影響について、成人および幼児を対象として検討したものであり、排斥経験と対人感情や敵対的態度の関係に関して、社会心理学や発達心理学の観点から意義のあるデータを提供している点で、特に卓越した研究と認めました。

日本心理学会第 88 回大会

学術大会優秀発表賞 第 2 次審査結果

審査グループ名 : 3A

取りまとめ役氏名: 原田 悦子 (筑波大学)

<特別優秀発表賞> (計 1 本)

発表番号: 3A-026-PD

題 目: 精神障害の有無によるコロナ禍の精神症状と有効な対処方略:2020 年から 2022 年に行った縦断調査によるデータ解析

<優秀発表賞> (計 4 本)

発表番号: 3A-035-PI

題 目: 映像視点の切替えによるシーン比較の干渉とその緩和

発表番号: 3A-039-PI

題 目: 人間は AI 生成絵画を見分け、評価できるか

発表番号: 3A-045-PI

題 目: 成人における心の理論課題の実験的検討: 方略の使用と他者視点取得の関連性

発表番号: 3A-057-P0

題 目: 親子の知能と性格特性の類似における性別特異性

<選考経過>

最多得票数 (5 票) の発表が 4 本, 次多数票 (4 票) の発表が 1 本となったため, この 5 本を優秀発表賞候補とし, その中でも特に優れていると判断した発表「3A-026-PD 精神障害の有無によるコロナ禍の精神症状と有効な対処方略:2020 年から 2022 年に行った縦断調査によるデータ解析」を最優秀発表賞とした。なお, 得票数時点 (3 票) は 3 本であり, いずれも甲乙つけ難かったために選択的な表彰の対象とはせず, 最終的に最優秀発表賞 1 本, 優秀発表賞 4 本を推薦した。

日本心理学会第 88 回大会

学術大会優秀発表賞 第 2 次審査結果

審査グループ名 : 3B

取りまとめ役氏名: 尾見 康博 (山梨大学)

<特別優秀発表賞> (計 1 本)

発表番号: 3B-061-P0

題 目: 道徳的配慮において子どもは自分と似ている相手を優遇する?: 分配課題における内集団バイアスの検討

<優秀発表賞> (計 3 本)

発表番号: 3B-031-PD

題 目: 統合失調症および自閉スペクトラム症への社会認知スキルトレーニングの多施設ランダム化比較試験

発表番号: 3B-003-PC

題 目: 人は自分が思っているほど他人に迷惑をかけているのか?: 援助要請行動における関係性への影響の過大視の文化差

発表番号: 3B-036-PD

題 目: 日本語ディスレクシア児の音韻障害と脳機能学的基盤

<選考経過>

1. 最多得票数 10 票を獲得した発表が 1 本, 9 票が 2 本, 7 票が 1 本, 6 票が 1 本, 5 票が 3 本 (以下略) でした。
2. 最多得票の「3B-061-P0」を特別優秀発表賞とし, 7 票以上の 3 本を優秀発表賞としました。
3. 特別優秀発表賞の 1 本は, 子どもを対象に公平な分配状況かどうかで内集団バイアスに違いが見られるかを実験的に検討したものであり, 特に卓越した研究と認めました。

日本心理学会第 88 回大会

学術大会優秀発表賞 第 2 次審査結果

審査グループ名 : 3C

取りまとめ役氏名: 高瀬 堅吉 (中央大学)

<特別優秀発表賞> (計 1 本)

発表番号: 3C-037-PI

題 目: 道具の使用目的と使用動作の脳内表象

<優秀発表賞> (計 4 本)

発表番号: 3C-010-PC

題 目: 二兎を追う夫婦は四兎を得る——共働き夫婦のワーク・ファミリー・エンリッチメントおよび潜在的態度が職場での創造性に与える影響——

発表番号: 3C-038-PI

題 目: 道徳的に善い人は美しい?——信号検出理論を用いた実験心理学的検討——

発表番号: 3C-017-PC

題 目: 排斥後の感情反応と痛み関連画像提示後の感情反応の類似性

発表番号: 3C-051-P0

題 目: 乳児期の新奇選好が幼児期の言語・社会的発達に及ぼす影響——早産児を対象とした縦断研究——

<選考経過>

最多得票数 7 票の発表を特別優秀発表賞とした。また、その次に得票数の多かった 3 本の発表を優秀発表賞とした。優秀発表賞の残り 1 枠について、得票数 4 票の発表が 2 つあったが、研究内容の重要性に鑑み、3C-051-P0 の発表を優秀発表賞とした。

以上

日本心理学会第 88 回大会

学術大会優秀発表賞 第 2 次審査結果

審査グループ名 : 3D

取りまとめ役氏名: 河原 純一郎 (北海道大学)

<特別優秀発表賞> (計 1 本)

発表番号: 3D-104-PT

題 目: 創造性に対する屋内運動・屋外運動の効果——主観・行動・生理指標からの検討——

<優秀発表賞> (計 5 本)

発表番号: 3D-077-PP

題 目: 普段の身体姿勢とその気づきおよび自尊・道徳感情との関連性——(I) 自他により知覚された蓄積姿勢に着目して——

発表番号: 3D-010-PC

題 目: 無自覚な同調は社会的規範として機能するか?

発表番号: 3D-015-PC

題 目: 利他行動に対する他者評価の推測——評価者数との関連から——

発表番号: 3D-050-PI

題 目: 恋愛パートナーと親しい友人に関連した神経表象——マルチボクセルパターン解析を用いた検討——

発表番号: 3D-022-PD

題 目: 貧困は恥ずかしいことか——家庭の経済状況と心理的適応の関連における貧困にまつわる恥の役割——

<選考経過>

1. 得票数 5 票の発表が 1 件, 4 票が 1 件, 3 票が 7 件でした。
2. 従って, 最多得票であったもの 1 件を特別優秀発表賞としました。
3. 4 票を得たものをまず優秀発表としました。7 件の 3 票獲得発表から優れたもの 4 件を選び, 合計 5 件の優秀発表賞としました。